

■■■「釜ヶ崎の防災・減災を考える」シリーズ報告(1)

釜ヶ崎のまち再生フォーラム（事務局長）ありむら潜

講演会「備えよう地震 孫・子の代まで」

講師：住友則彦氏（神戸学院大学・人文学部人間行動学科教授）

2004年12月9日（木）18:30～20:45 @今池こどもの家

参加者15名

■お話のメモ

骨子

- 阪神大震災のこと
- 地震はどうして起きるか
- 予知はなぜむつかしいか
- 30年確率とは何か
- 地震防災対策について

▽京都大学防災研究所地震予知研究センター（教授・センター長）として阪神大震災に関わった。

▽大阪や西成区の街全体として防災の問題は考えるべき。釜ヶ崎だけの状況というのは無い。特に津波の場合は同じ条件。

釜ヶ崎を歩いてみて、関東大震災のときの朝鮮人へのデマや撲殺を思い出した。平時は見せない差別意識が爆発的に噴出するかもしれない。平時には考えられないことがパニックの中では起こる。心配。

▽西南日本は地震活動期に入った。全国どこでも地震は起こるという認識を。

予知には限界がある。最悪の場合を心にとめておくべき。

「その時」への備えはあるだろうか。

- ・市民の危機管理とは、個人の備え、家族の備え、地域の備えから成る。
- それに、「広域連携」が加わる。

▽地震と津波発生を予測すると・・・

- ・東海地震→もういつ起きてもおかしくない。
- ・東南海地震（前回1944年）、南海地震（前回は1946年）  
→100年強周期。2040～2050年あたりの発生確率が高まる。  
前回はマグニチュード8.0と小さかったので（それまでは8.4）、早まる説あり。  
→しかも、3つが連動して3連発の可能性もある。

この場合は巨大津波となって、大阪湾の奥や淀川沿いまで襲う。

- ・一方で、50 年前から内陸部での地震が活発になっている。つまり、上町地震。海ばかりに気をとられていると、不意打ちをくらう。むしろこちらのほうが私は気になる。神戸だってまだわからない。
- ・大津波では年寄りや逃げられるか。かばって逃げられる態勢を組めるか。
- ・淀川沿いの堆積土砂はダントツに弱い。
- ・われわれの暮らしは活断層の上であり、時限爆弾の上に成り立っている。  
日本列島はこの 1500 年間に大地震が 450 回も起きている。
- ・しかし、地震予知では地震の場所・揺れの規模・範囲などはかなり予知できても、それがいつ起こるかについてはあきらめざるをえない。

## ■やりとり

### ▽どこから始めるか。知ることから

「釜ヶ崎の実態は個人の備え→低い、家族の備え→家族そのものが無い、なので、地域の備え→これでカバーするしかない。どんな対処法があるのだろうか」

「まずは“知る”ということから始めなければ。行政の防災計画などを知ることから」

「町会住民と労働者との意識のギャップは大きい。町会からすれば、労働者といっしょに避難所（学校の講堂）に入るのにはかなわんと感じている。“なんで（何もしない）あいつらのためにワシらが動かなあかんねん”“ワシらは預金通帳を持って寝なあかんのや”というような」「それと、行動しない人たちで議論してもしょうがないのでは」

「いや、まずはこういう場を持って、必要なことを“知ることから始めよう”というのには意味がある。今はみんなあまりに知らない状態。ここから始めるしかない」

「私らも公園や避難所の鍵は各町会の誰が持っているのかくらいしかわかっていない」

「次回は市や区役所など行政には何ができるのかの勉強会をやればいい。備えをつくらせ、チェックするために。プラス、地域の力をどう生かせるかをみんなで考える」

「そういえば、阪神大震災のときも支援にかけつける力をこの日雇い労働者の中には持っている人もいる。それを経て実効ある話し合いの場（シンポジウムなど）へ持っていけないだろうか」

「行政は（危機の時にどう対応するか）ハザードマップを持っているはず。その中であいりん地域はどうなっているのか、初動体勢は？その後は？ということが述べられているはず」

→追記。大阪市は（この学習会の3ヵ月後である）2005年3月度に「大阪市地域防災計画」（河田恵昭委員長）を作成している。

津波は高さ「4m」でシュミレーションされている。

▽地域の力とは

「神戸では泥棒などへの対応策として自警団をつくって出撃した経験があるようだが」  
「あいりんの場合、どこがそれをつくるのか。町会がやるといっても、労働者側の数が多すぎる。ふだんから顔なじみもない」  
「この地域の力とはふだんからの支援団体の力だと思う。それが基盤だ」  
「まずは災害のこわさや対応を知ることから始め、次に住民層ごとに対策を考える→そして全地域的な取り組みに広げていく、ということになるのでは」

▽たとえば大津波のときはどうする？

「津波のときは屋上に昇ればええの？お年寄りたちはどこへ誘導すればええの？」  
「南海地震では家はつぶれないだろう。“ゆっくり長く”だから。内陸型地震（上町地震や有馬高槻断層帯の地震）ではつぶれるかもしれない。ガ〜と揺れが来るのはこれ。この場合は外へ出るほうがいい」  
  
「今回は西成区の防災プランを話してくれる人を呼びましょう。質問もぶつけよう。とりあえず初動段階で命を守るにはどうすればいいか。備蓄は？そののち1週間後〜長期の避難生活はどうするのか、などなど」

以上